

## ◎議会報告

### テーマ 雨氷被害対策と小・中学校の教育振興について

#### 雨氷被害について

##### Q1 市民

- ・ 地区森林委員会に早急に被害状況を出せと言われたので、調査期間が短すぎるので、見えない部分がかかなりあり、（奈良井川）の東にも被害があると思われ、実際には倍くらいの面積になるのではないかと思うので、早急に調査をし、正確な被害面積を出してほしい。
- ・ 被害木の搬出が困難。作業道などが特に川東が未整備で小規模な被害が点在し、そこまですぐ手が回らない。一帯を整備する計画を立て、補助をする制度、緊急的な手当てをお願いしたい。（県も含めて）
- ・ とりあえず保安林の整備ということだが、保安林の指定は所有者の同意が必要で、所有者の特定もままならない状況があるので、特例のような形でできる方策を探してほしい。

##### A 金子議員

- ・ 県のヘリコプターと目視による被害調査の図なので、言われる通りすべてではない。保安林等の要望については、行政に話してみる。基本的には森林整備計画の中で対応することになるとの説明を受けている。地元の森林政策は議会より皆さまの方が詳しく、方法等について可能な対策が考えられれば、議員を通じ教えていただくとありがたいし、今後の整備計画についてもご提案、ご協力をおねがいしたい。

##### Q2 市民

- ・ マツタケ山に詳しい伊那の方に見ていただいたところ、マツタケどころではない、まちから人がいなくなってしまうほどの被害だといわれたので、そのくらいの災害であるという認識をもって対策をとってもらいたい。
- ・ 山のお宝ステーションへの持ち込みが、被害材1 t 3,000円では持っていかれない。1 t 4~5,000円くらいかかるのではないか。檜川なり北小野なりに一時的にステーションをいどうするような配慮がなければいけない。たとえば、県で池の沢の被害木を搬出して、あとは地元で処理してくださいと言われる。宗賀のステーションにもっていけば必ず足が出る。被害が大きいところにステーションを移動させれば処理が進む。

##### A 金子議員

- ・ すでに委員会では、この単価では難しいという指摘はされている。しかしながら、今回の被害木は薪としての製品にはならないといった事情があり価格設定が難しい。今後要望していく。

県の整備補助金も単価が少なすぎる、県の予算確保が難しいという現状がある。緊急性が

少ないところは時間をかけ林野庁の支援も必要ではないかを感じる。県議とも連携し、議会としても取り組んでいきたい。

### Q3 市民

・ 檜川地区の被害は、西側の集落に近接しており、急傾斜地になっているので、併せて土砂被害対策も検討してもらいたい。

・ 薪ストーブを使っていて、薪の調達に苦慮している。倒木の処理は、市の講習も受けたが、とても危険である。山林を借りて薪をとっているが、所有者からも片つけてくれと言われているが、危険なので道に近いところから処理をしている。

檜川地区には、ストーブやふろで薪を本格的に利用している人が10軒くらい。被害木を利用すればよいと思うが、2年くらい放置すると薪として利用できなくなる。対策を地域でも検討したいと思う。

### A 金子議員

・ 需要が追いついておらず、価格もそれなりにになってしまうという現状だ。そんなことも検討していきたい。薪ストーブの設置補助もあるので活用して需要を喚起したい。

・ 農林課の会議で、ウィンチや薪割り機の整備要望をし、それぞれ2台用意してもらった。森について、国県市が大きく変わってきたと実感する。非常に使い勝手が良い。以前は知り合いの業者から1日6,000円で借りていたので、市の無償貸し出しは大いに助かるので続けてほしい。

## 教育振興について

### Q1 市民

・ 4月からコミュニティー・スクールが始まった。両小野地区が成功していると聞くと、子どもの人数は？

### A 横沢議員

・ 小学校が140人くらい、中学校が80人くらい。(コミュニティー・スクール、小中一貫校の説明)

### Q2 市民

・ かなり以前から取り組まれていて、地域、学校、保護者が一生懸命に取り組まれているが、子どもの人数の減少に歯止めはかかっているか。

### A 横沢議員

・ 踏みとどまっているような状況にはないが、地域が一丸となって子育てをするという意識の醸成は図られていて、自信を持っている。子どもと関わることで地域そのものの活性化につながっている。子どもにとってもよい環境になっている。

(檜川地区学校コーディネーターから取り組みの紹介)

・ 漆器を始めとした職業体験の体制整備、雪かきボランティアなど地域の特色を出す体制づくりが求められている。人口減少の歯止めや子どものためにもなる。

地域から伝統的な行事も少なくなり、高齢者と関わる機会が減少している。地域の皆さんにも経験を生かした協力をお願いしたい。

### Q3 市民（他地区の独身者からの意見）

・資料に現状と課題が書かれているが、目標やあるべき姿というものが地域で共有されているのが見えない。方向性を一緒に考えないと、手だては浮かんでこないのではないかと  
思う。

#### A 篠原議員

・小野の取り組みを見てきたが、とにかく地域が熱心である。檜川としても先々の方向性は持っているとは思いますが、産業の衰退などで、自信を失っている気がする。大人が自信を持った地域づくりをしている後姿を見せることが必要だと意見を聞いて感じた。檜川地区の皆さんもぜひ小野地区へ行って感じ取ることが必要ではないか。

### Q4 市民

・先日地域役員で、両小野小に行ってきた。贅川区は地域に準PTA会員がいるなど模範的な地域だ。（学校尾のあり方について）考えが、区役員、PTAご家族、子どもたちとそれぞれ異なる。誰がリーダーシップを取っていくのが良いか悩んでいる。小学校を残し中学校はどこかに行くか、あるいは、小中一貫でいくのかなど、いろいろな意見が出ている。

#### A 金子議員

・世代間で意見が違うのはどうしようもない。どういう地域を作っていくのかをしっかりと話し合っていくことしかないと思う。

#### A 横沢議員

・両小野で小中一貫を導入した際、どうしたらこの地域が将来残れるかということに4年くらい時間をかけて話し合った。それを行政にぶつけていった。最初は相手にされなかったが、なんとか実現にたどりついた。現在のリーダーは、当時関わった皆さんや、教員OBで進めている。こうした先駆的な取り組みをしている学校に来たいという先生もおられて、赴任していただいたことも成功の要因だと思う。

#### A 丸山議員

・片丘地区も少子化で子どもの数が問題になっており、地域の要は学校だということが言われている。片丘は小学校のみで、中学校は広丘・吉田地区の都市部の子どもたちと一緒にというような形になっていて小中一貫は考えられない。地域で考えるしかない。

・木曾郡も人口減少に頭を抱えている。どこでも一緒。子どもが残ってくれる地域づくりが大事。地元で産業がないとだめだ。親が喜んでやってくれる仕事を見せないと、子どもは残らない。どこの地域でも同じこと。明るい家庭で親の背中を見せて育てることが大事だ。小中一貫も大事なことになるので、地域で考えなければいけない。

・子どもの人数の少なさは現実でしかたがないが、このような機会を持っていただき情報の共有をすることはとても大事。学校の行事にも参加して子どもの顔をみながら、また考えてもらえばもっと良いと思う。

## その他

### Q1 市民

・空き家対策について議会の動きはどうか。

**A 金子議員**

- ・ 4年ほど前から、各議員が一般質問等で取り上げ、市としても空き家バンク制度の対策を講じていたが、あまり効果がない。使えなくて危険な空き家についても条例化を求めているがようやく適正管理条例ができたことにより、市から強い指導ができるようになった。また、空き家バンクも不動産業者と連携するようになった。

**A 丸山議員**

- ・ 振興公社で空き家の登録を始めた。しかし、農村地域はまだできない状況があるので、議会としても取り組んでいきたい。

**Q2 市民**

- ・ 体育館の寄付というようなこと新聞に出ていたが、どういうことか。

**A 永田議員**

- ・ スポーツ夢基金という基金の話で、全国大会やオリンピック等に出場する選手にそれ相応のものを差し上げるというもので、原資だけだと数年でなくなってしまうことから、そのための寄付を募り、お名前を体育館に刻んで差し上げるということです。

**Q3 市民**

- ・ 新体育館だが、檜川からだと車で20分かかる。檜川には体育館がある。施設が老朽化しているので修繕して欲しい。

**A 丸山議員**

- ・ 市の体育館も耐震化をしているし、各地域の体育館も末永く使えるように要望していく。新体育館も競技スポーツだけでなく健康づくりなど幅広い利用がされるように進めていく。

**Q4 市民**

- ・ 政務活動費廃止には反対だった。復活すべきだ。

**A 丸山議員**

- ・ 政務活動費は廃止され活動報告の義務もなくなったが、会派としてどのような活動をしたか公開するようにしている。

**Q5 市民**

- ・ 檜川支所の移転問題だが、保健福祉センターの場所ということだが、水害で危険な箇所である。子どもの通学路でもあるし、駐車場も整備されていない。現在も社協や学童保育で使われている。支所や公民館、図書館まで入ると狭いということを知っておいて欲しい。

**A 篠原議員**

- ・ (経過の説明) 改めて、32年までに計画を立て、その過程で様々な課題についても検討していく。